

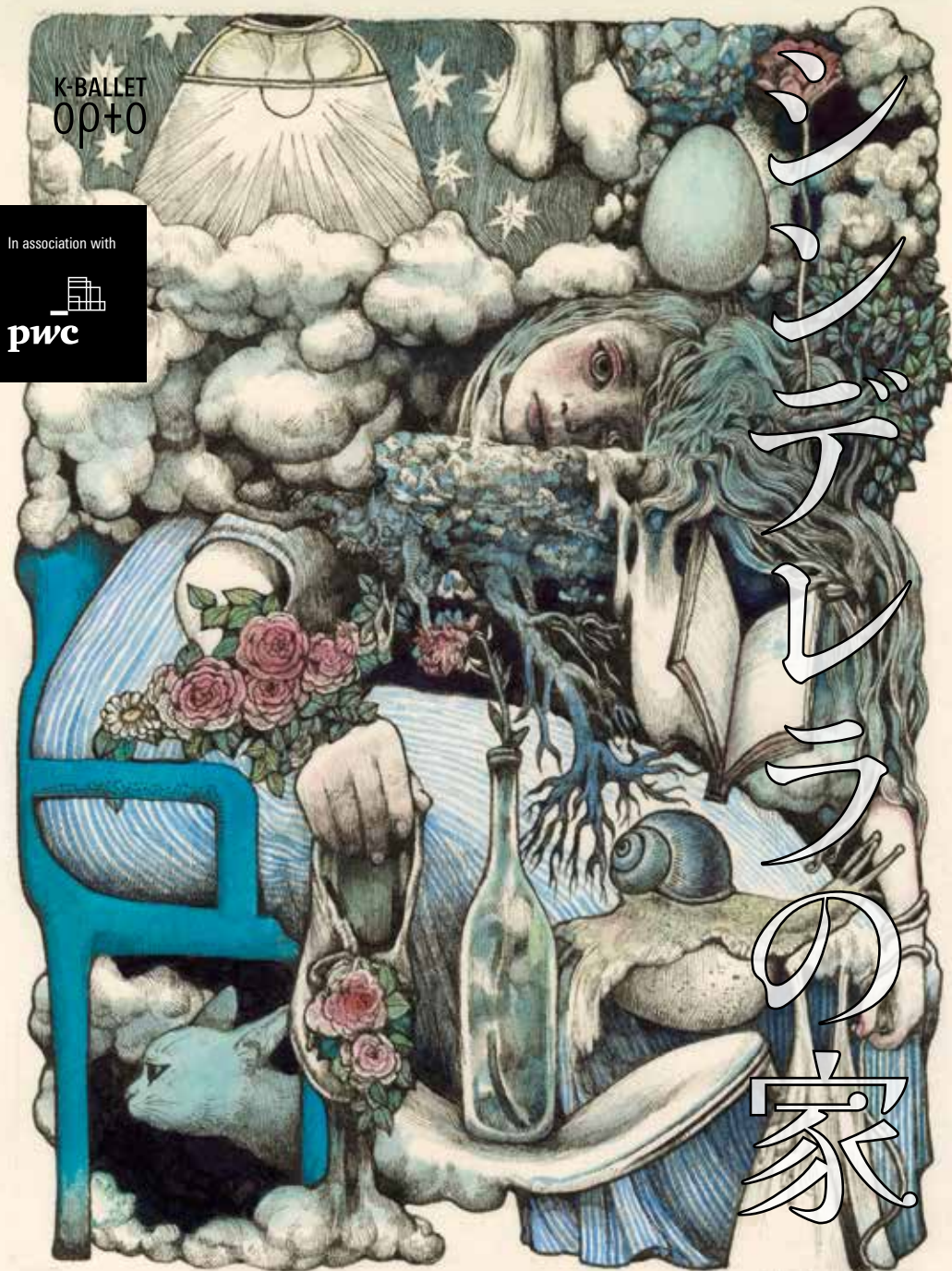
Orchard シリーズ

K-BALLET
Op+0

In association with



シンデレラの家



美しい時代へ——東急グループ

K-BALLET Opto シンデレラの家

In association with  **pwc**

2024年4月27日（土）～4月29日（月・祝） 5公演
東京芸術劇場 プレイハウス

4月27日（土）15：30
4月28日（日）12：30 | 17：00
4月29日（月・祝）12：30 | 17：00

主催・制作：Bunkamura / 
特別協賛：PwC Japanグループ

助成：公益財団法人東京都歴史文化財団
アートカウンシル東京 [芸術文化魅力創出助成]



K-BALLET TOKYO
Bunkamura オーチャードホール

芸術監督 熊川哲也



本日はK-BALLET Opto 公演『シンデレラの家』へご来場いただき、誠にありがとうございます。

本年、K-BALLET TOKYOは、25周年を迎えます。創立当初より、現代に生きる我々が、新たな価値を加えながらバレエという伝統芸術を継承することを理念に、多くの作品をお贈りしてきました。

2022年に旗揚げしたK-BALLET Optoは、現代社会に潜む潜在的な課題や、大きな価値観の変容といった、我々が向き合わなければならない現代的な問題を芸術へと昇華し、発信することに取り組んでいます。

今回は、まだ一般に認識の薄い「ヤングケアラー」を取り上げます。家庭という閉ざされた空間で起きるがゆえ、その深刻性にもかかわらず、最近まで問題視されることがありませんでしたが、「家族のために自分の生活を諦めざるを得ない」というヤングケアラーの問題の本質は、誰しもが直面し得る現実です。

もしも、シンデレラが現代日本のヤングケアラーだとしたら——。最果タヒ氏の詩を原案に、『シンデレラ』が現代翻案されることで、皆さまそれぞれの“いま”と作品が、いっそうの繋がりを持つことでしょう。そこにこそ、バレエという芸術がこのようなテーマに挑む価値があると信じております。

ジュゼッペ・スポッタ氏をはじめとする各分野の活躍目覚ましいアーティストたちの果敢な挑戦を、Bunkamuraとのコラボレーションで実現できることを誇りに思います。

最後に、特別協賛いただいておりますPwC Japanグループ様をはじめ、本公演実現のためにご尽力賜りました関係者各位に厚く御礼申し上げます。また、観客の皆様の温かいご支援に心より感謝いたします。

シンデレラの家

K-BALLET Opto

Bunkamura と K-BALLET TOKYO が2022年に立ち上げた新たなダンスプロジェクト。創立から四半世紀、芸術監督熊川哲也の下で豪華絢爛な古典バレエの全幕作品を生み出してきた K バレエが「芸術がいかに社会にその価値を還元していくか」という命題に応えるべく、今を生きる私達が共感しうる“時代性のある作品”を届けるために始動。世界の最前線をゆく振付家の起用、他ジャンルのアーティストとの共創を通じダンスの多様な魅力と深層を探る。

シンデレラの家

シンデレラの家〈世界初演〉

演出・振付・舞台美術 | ジュゼッペ・スボッタ

作曲・編曲 | クリストフ・リットマン／和田 永 (S・プロコフィエフ「シンデレラ」)

企画・構成 | 高野泰寿

原案・詩 | 最果タヒ「シンデレラにはなれない」

演奏 | エレクトロニコス・ファンタスティコス! (和田 永 山本颯之助 田中啓介 辻 祐)

照明デザイン | 伊藤雅一

衣裳デザイン | 進 美影 (MIKAGE SHIN)

美術設計 | 坂田直哉 (東京工業大学 塚本由晴・山崎義弘研究室)

振付アシスタント | ファビオ・リベルティ

あらすじ

日本のいろいろな街でシンデレラは生きている。

たとえば、認知症の祖父、こころを患い怒りを制御できない母、そしてその母と新しい男との間にできた義妹の世話に明け暮れる日々のシンデレラがいる。

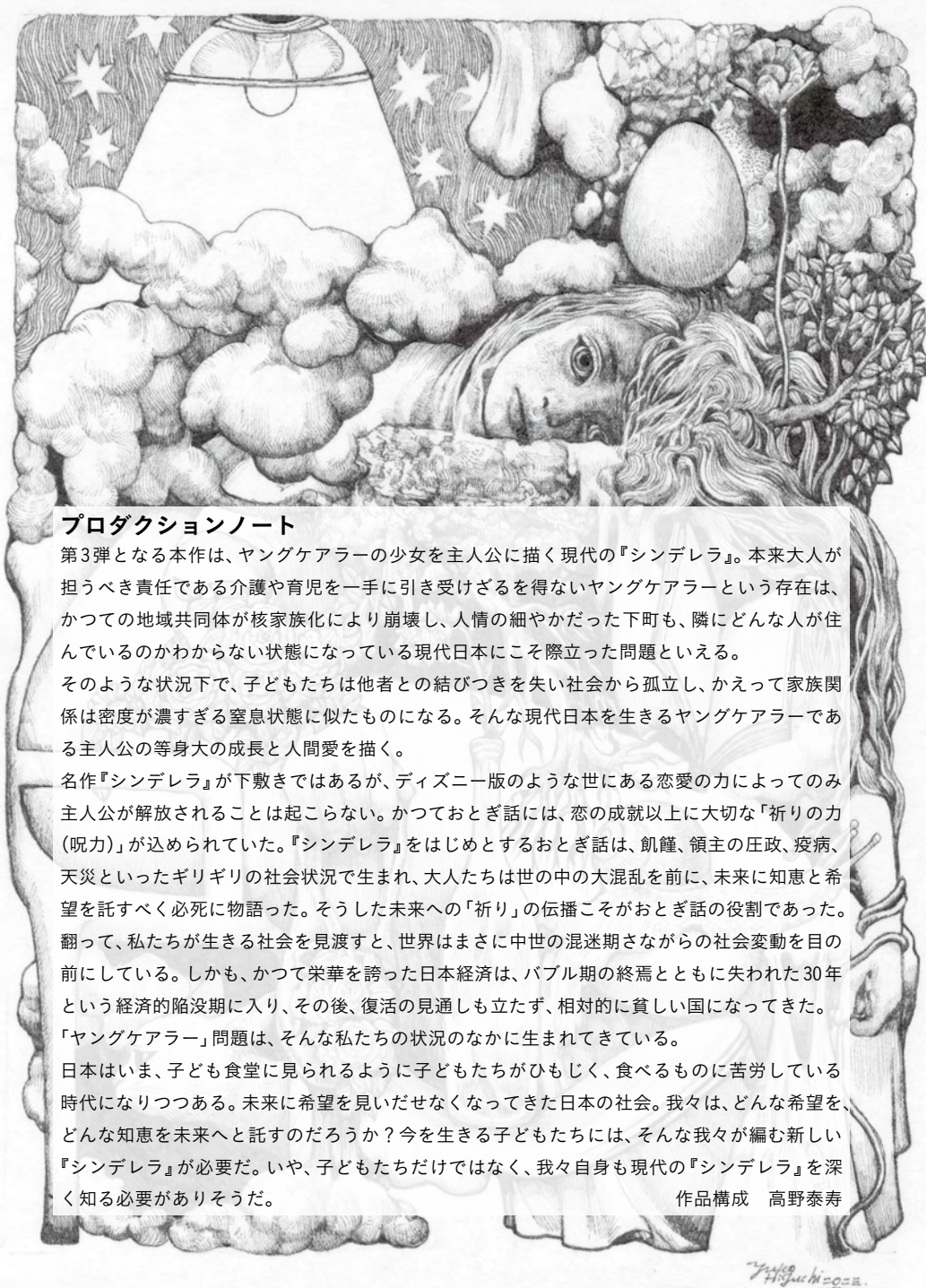
家族のために生きる彼女は、自分を愛すすべを知らない。幸せを願うことすら贅沢で、後ろめたさを感じる。そんな彼女の頭によぎるのは、祖父も義妹もない母との安寧。ある日、シンデレラを気にかける伯母(亡父の姉)が訪ねてくる。伯母は、シンデレラの母との折合いの悪さから疎遠であったが、現状を見兼ねて一時的に家族の世話を引き受ける。一方、シンデレラは学校で一年に一度の舞踏会への誘いを受ける。が、シンデレラが家族を見殺しにすると取り乱す母。茫然自失のシンデレラを祖父は舞踏会へと促す。舞踏会は、シンデレラの登場で一段と盛り上がりを見せる。

すると午前0時の鐘がなるや、眼前に現れた祖父。いつしか級友の姿は消えあたりは暗闇に。悪夢からの覚醒を願う彼女に届いたのは祖父の訃報。

夢の時間は終わり現実に戻されるシンデレラ。永遠に続くように思われた状況は変わりをみせる。母は精神病院へ入院することに。シンデレラから自由を奪っていた人たちはみな家からいなくなった。

かつて家族からの解放を夢見た彼女は、その喪失の前に何を思うのか。「愛」と「憎しみ」のはざまに生きる少女が見つけた愛の逆説と希望とは。





プロダクションノート

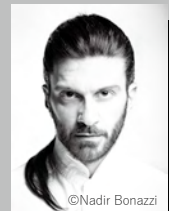
第3弾となる本作は、ヤングケアラーの少女を主人公に描く現代の『シンデレラ』。本来大人が担うべき責任である介護や育児を一手に引き受けざるを得ないヤングケアラーという存在は、かつての地域共同体が核家族化により崩壊し、人情の細やかだった下町も、隣にどんな人が住んでいるのかわからない状態になっている現代日本にこそ際立った問題といえる。

そのような状況下で、子どもたちは他者との結びつきを失い社会から孤立し、かえって家族関係は密度が濃すぎる窒息状態に似たものになる。そんな現代日本を生きるヤングケアラーである主人公の等身大の成長と人間愛を描く。

名作『シンデレラ』が下敷きではあるが、ディズニー版のような世にある恋愛の力によってのみ主人公が解放されることは起こらない。かつておとぎ話には、恋の成就以上に大切な「祈りの力（呪力）」が込められていた。『シンデレラ』をはじめとするおとぎ話は、飢饉、領主の圧政、疫病、天災といったギリギリの社会状況で生まれ、大人たちは世の中の大混乱を前に、未来に知恵と希望を託すべく必死に物語った。そうした未来への「祈り」の伝播こそがおとぎ話の役割であった。翻って、私たちが生きる社会を見渡すと、世界はまさに中世の混迷期さながらの社会変動を目の前にしている。しかも、かつて栄華を誇った日本経済は、バブル期の終焉とともに失われた30年という経済的陥没期に入り、その後、復活の見通しも立たず、相対的に貧しい国になってきた。「ヤングケアラー」問題は、そんな私たちの状況のなかに生まれてきている。

日本はいま、子ども食堂に見られるように子どもたちがひもじく、食べるものに苦労している時代になりつつある。未来に希望を見いだせなくなってきた日本の社会。我々は、どんな希望を、どんな知恵を未来へと託すのだろうか？ 今を生きる子どもたちには、そんな我々が編む新しい『シンデレラ』が必要だ。いや、子どもたちだけではなく、我々自身も現代の『シンデレラ』を深く知る必要がありそうだ。

作品構成 高野泰寿



ジュゼッペ・スポッタ Giuseppe Spota | 振付家

2002年にバレット・ディ・ローマに入団。2004年アテルバレットに参加。在籍中、当時の芸術監督マウロ・ピゴンゼッティの指導のもと、イリ・キアン、オハッド・ナハリンらの作品を踊る。その後ドイツへ渡り、ゴートイエ・ダンスに入団。2010年ヘッセン州立劇場バレエ団に入団、芸術監督のシュテファン・トスに感銘を受け、振付活動始める。2011年トス振付『Blaubart』に出演後、ドイツで最高峰の芸術賞である「ファウスト」賞受賞。同年ハノーバー国際振付コンクール2位入賞。2019年より MiR ダンス・カンパニー ゲルゼンギルヒェンの芸術監督。

イタリアでマウロ・ピゴンゼッティに、ドイツでシュテファン・トスに師事し、ヨーロッパ・ダンスシーンの最前線で活動続けるジュゼッペ・スポッタ。現在、ゲルゼンギルヒェンを本拠地とする MiR ダンス・カンパニーの芸術監督を務める。この気鋭の振付家が、Kバレエ・オプトのためにヤングケアラーをテーマとしたシンデレラ現代翻案『シンデレラの家』を制作した。

今作は、コンセプトがある状態からの制作ですね。

素晴らしいテーマだと思いました。お客様が見ることで、自分との繋がりが得られる題材だと思います。等身大の主人公のリアリティを追求すべくおとぎ話の『シンデレラ』にはしませんでした。一方で、ペロー版の原作から取り入れたのは、シンデレラが舞踏会に実は3回訪れること。そして3回目にして午前0時の鐘が鳴ることです。鐘が鳴るまでの「時間」、シンデレラの心情描写に重きを置いた演出をおこないました。

登場人物のキャラクター、長靴はシンデレラの心情の象徴、王子は登場せずガラスの靴もない、など作品の理解を助けるヒントがあらかじめ提示されています。

『シンデレラ』の現代翻案を考えるにあたり外せない要素がいくつかあります。ガラスの靴や王子様といった作品の代名詞をどうヤングケアラーという文脈で解釈するか。その私なりの答えが、シンデレラが抱く母への複雑な想いの表象としての長靴なのです。ぬかるみから足を守る一方で、動きにくくなる。そういった、私なりのシンデレラの読み解きが舞台装置の仕掛け、照明へとつながっています。

音楽はオリジナルですか？

プロコフィエフの「シンデレラ」から序曲、ワルツ、0時の鐘がなるところを使用しています。他はクリストフ・リットマンの作・編曲、和田 永の曲からなるオリジナルです。リットマンに私の作品の音楽を作ってもらうのは3回目、ダンスと調和した聴きやすい音楽です。彼の良いところは例えばドラマティックなシーンの場合、ドラマティックになりすぎない、ギリギリのところを攻める絶妙な音作りです。和田 永はまさに魔法使いです。視覚的にも観客が見たことない世界へといざなうカギとなります。

Kバレエ トウキョウのダンサーの印象は？

彼らが常日頃素晴らしい作品に触れて表現、技術を磨いていることが動きの端々から感じられます。クラシックを極める彼らだからこそ、表現できる領域をどう引き出してあげるか。最終的にダンサーをよく見せるための振付なので、ダンサーとの対話を大事にして自分のスタイルは保ちつつも彼らに合う作品に仕上げました。





エレクトロニコス・ファンタスティコス！ 主宰 和田 永

ブラウン管テレビからは静電気が発生している。その静電気を手で拾って身体を通して電気信号をギターアンプに繋いでみたら音が鳴った。それが、和田 永が役目を終えた家電を「電磁楽器」へと生まれ変わらせたのはじまり。隠れた音を鳴らす方法を偶然見つけた感覚だったそう。こうしてこれまでに15種類ほどの役目を終えた家電を楽器として甦らせ、エレクトロニコス・ファンタスティコス！というプロジェクトを立ち上げてワールドワイドに演奏活動を続けている。そんな和田がKバレエ・オプトと共にステージに立ちコラボレーションする。

テーマは電磁祭囃子 楽器に変身した旧家電が持つプリミティブな力

電化製品が鳴らす電気信号の響きと、土着的な祭りの音楽とが結びつくことに興味があります。家電をあれこれいじってみて一音鳴る、そのうち何音か出て音階になる。その発見の過程には、あらゆることに便利にできる時代にいて、自分たちの手で実験してつくっていくという素朴な喜びがあります。そうした感覚が、祭りのイメージとも重なった瞬間がありました。現代のテクノロジーは実のところ自然の野生の電気から生まれている。人や家電が<電>のエネルギーで野生的に繋がる祭りがあり得るのではないかと日々創作を続けています。手作りの楽器を自動演奏ではなく自分の手で触れながら演奏するのも、身体と家電が繋がってプリミティブな力を感じられるからです。

ジャムセッションから曲が生まれる

まずは集まってジャムセッションする中で曲やアレンジが生まれることが多いです。民謡のメロディーをもとに、それを「電磁祭囃子」として解釈するとどうなるかと試してみたりもします。文明の遺物である家電たちが山積みになって捨てられていて、それをかき集めて演奏しはじめる民族が出てきたらどんな音楽が生まれるだろう、盆踊りしたらどうなるだろうか、なんていうファンタジーも抱いています。水木しげるの影響もあり、古い傘がからかさ小僧になるように、家電製品もやがて妖怪になって歌って踊りはじめるはずです。

Kバレエ・オプトとのコラボレーション

お話を聞いた時、とても興奮しました。踊りと一緒に演奏したいという想いは長年抱えてきたんです。そもそも演奏しながらいつも「踊りたい！」「踊りが足りない！」という感覚があって、遂に血流と電流が交わる場に参加できることが嬉しいです。今回、作品タイトルが『シンデレラ』ではなく『シンデレラの家』なんですよ。家は本来守ってくれる存在ですが、ここでは圧力としての面も立ち現れます。さらに家を模した舞台は内臓のようにも感じるところがあり、外在的な存在である家電がどう主人公の内面を奏でていけるか、どんな化学反応が起こるか、とても楽しみです。僕らは主にパーティーシーンを舞台上で演奏するのですが、パーティーは魔法がかかった瞬間、マジカルタイムですよ。現実のオブジェクトが姿を変えるというような表現ができればいいなと思っています。プロコフィエフの楽曲をモチーフにすると聞き、完成された高度な音楽と、未完成な家電による電磁音楽とが合うのかと不安になったのですが、作曲を担当しているクリストフ（リットマン）さんの音楽は、現代的なテイストが加味されたゴリゴリのテクノ・ミュージック。これならすごく刺激的なものになる気がして、テンションが上がっています。



和田 永 Ei Wada | アーティスト・音楽家

大学在籍中より音楽と美術の領域で活動を開始。2009年より Open Reel Ensemble、Braun Tube Jazz Band として活動。2015年より古い電化製品から新たな「電磁楽器」を創作しオーケストラを形作るプロジェクト「エレクトロニコス・ファンタスティコス！」を始動、第68回芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。現代アートの旗手として彼のパフォーマンスは常に注目を集めるが、本作では特に音楽家としてのずば抜けた閃きが発揮されるに違いない。

使い古された家電はどのように楽器へ再誕するのか

扇風琴

扇風機に電球と穴の開いた円盤を取りつけ、回転によって点滅する光を「光ピック」で電気信号として拾い、ギターアンプから音を鳴らす。円盤の内側から外側に向かって穴の数が多くなるように設計されており、「光ピック」を当てる位置によって光の点滅速度の違いで旋律を奏でることができる。

さらに弱・中・強のスイッチによる回転速度の変化によっても音程が変化する。

扇風機奏者は、扇風機を上下逆さまに担ぎ、これらの方法を駆使して扇風機を弾く。

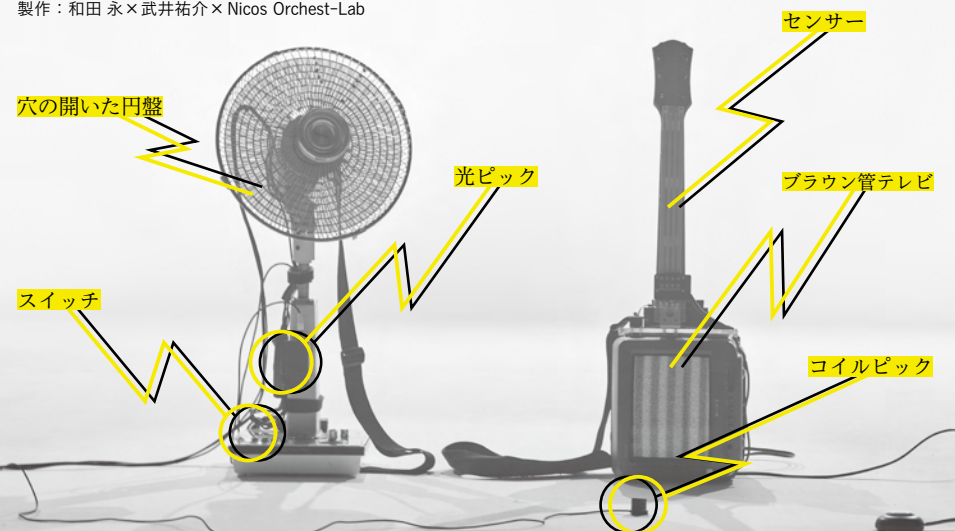
製作：和田 永×武井祐介×Nicos Orchest-Lab

テレナンデス

ブラウン管テレビの画面から発せられる静電気を「コイルピック」で拾い、ギターアンプから音を鳴らす。ネック側のセンサーで画面に映る縞模様を変え、電気の波長を変えることで音程が変化する。縞模様を変えながら「コイルピック」で画面に触れることで旋律を奏でることができる。

テレナンデス奏者は、ブラウン管を担ぎ、これらの方法を駆使してテレビを弾く。

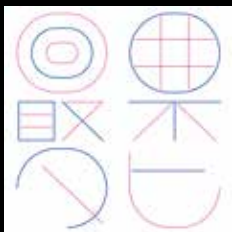
製作：鷺見倫一×和田 永×Nicos Orchest-Lab





森 優貴 Yuki Mori | K-BALLET Opto アーティスト・スーパーバイザー

貞松・浜田バレエ団を経て1997年にドイツ・ハンブルクバレエスクールへ留学。ニュルンベルクバレエ団、シュテファン・トス率いるトス・タンツカンパニーに在籍。2012年9月ドイツ・レーゲンスブルク歌劇場ダンスカンパニー芸術監督に就任。日本人初の欧州の公立劇場舞踊部門における芸術監督となる。2019年、芸術監督を退任し日本に拠点を移す。次々と話題の新作を発表すると同時に、宝塚歌劇団にて講師を務めるほか振付にも携わるなど幅広く活動している。



最果タヒ Tahi Saihate | 詩人

2004年よりインターネット上で詩作をはじめ。2006年現代詩手帖賞受賞。2007年第一詩集『グッドモーニング』刊行。同作で中原中也賞受賞。2015年、詩集『死んでしまう系のぼくらに』で現代詩花椿賞を受賞、その後も詩集『夜空はいつでも最高密度の青色だ』が、池松壮亮・石橋静河主演で映画化されるなど新しい詩の運動をまきおこす。現代日本を代表する詩人である最果のレトリックを抑えたストレートで鋭い言葉が、どの様な舞台演出へと昇華されるのか期待が高まる。



進 美影 Mikage Shin | デザイナー

早稲田大学卒業後、一般企業に入社。退社後、パーソンズ美術大学に留学。2019年にニューヨークで自身のジェンダーレスブランド・MIKAGE SHINを立ち上げる。2022年に日本メンズファッション協会ベストデビュタント賞を受賞。「個人の知性と強さを引き出す」を理念に、国籍、年齢、性別を問わないデザインを提案している。そのボーダーレスでしなやかな発想は、着る人の個性や美意識をさりげなく物語ってくれる。今回は、初めての舞台衣裳制作としての参加となる。



酒井はな Hana Sakai

1988年橘バレエ学校に入学、牧阿佐美、三谷恭三に師事。1993年牧阿佐美バレエ団に入団、18才で『くるみ割り人形』主役デビュー。1997年新国立劇場開場とともに新国立劇場バレエ団に移り、柿落とし公演『眠れる森の美女』にて主演。以降同団プリンシパルとして数々の初演を含む主演を務める。2013年島地保武と共にダンス・ユニット Altneu(アルトノイ)を立ち上げる。2009年芸術選奨文部科学大臣賞、2015年第35回ニムラ舞踊賞、2017年紫綬褒章、2018年第39回橘秋子賞特別賞、2020年東京新聞舞踊芸術賞受賞。洗足学園音楽大学客員教授、DaBYゲストアーティスト。優れた表現力と高い技術に品格の備わった、日本を代表するバレエダンサーのひとり。



白石あゆ美 Ayumi Shiraishi

八束公子、ポリショイバレエ団専属バレエミストレス マリーナ・コンドラチュエワに師事。2002～2005年ポリショイバレエ学校に留学。2004年キエフ国際バレエコンクールファイナル出場 ジブロン受賞。2005年ポリショイバレエ学校卒業証書授与。2006年K-BALLET COMPANYに入団、2015年プリンシパルに昇格。K-BALLET SCHOOL Teachers Training Course (T.T.C.) 取得後、K-BALLET SCHOOLにて教師を務める。2017年8月に退団後フリー。ヌーボーシルク（現代サーカス）IGNIS DE ORNISの副代表として活動中。



王子様がきたから、どうなるのだろう
王子様が私を選んだから、どうなるのだろう
ママは私を愛してくれるの？
私はママを嫌になれるの？
私は家族を嫌になれるの？
家族は私が不要になるの？
私は王子様に抱きしめられて、きっと余計に全てを失う
シンデレラは
いいな
きっと家族のことが好きじゃないのだ
だからあんなふうに王子様のところに行ける
王子様に恋ができる

私が誰のことも大嫌いになっていいと、
教えてくれる人だけが私を探しにきてください
私が全ての家族を見捨てても
家族は死なないと、保証をして
手伝って
私が、幸せになるために
一緒に妹を捨ててくれる人

王子様
恋がしたい
恋が、できるような人になりたい
愛される人になりたかった
私は全ての人に嫌われて
全ての人に捨てられて
だから、本当はママを捨てたい
ママが私のことを好きだと言いに来てくれたら
嫌いだと言いたい
ママなんていらないと
言いたい
それだけを待っている

私がいなくなったら死んでしまう人がいる、ということが、
大人になった、ということで、
愛されているということで、
愛している、ということで、
家族だということで、
私がいなくなったら、死んでしまう人がいるから、
私は、優しくなる、
優しいことを言う、
優しい人になる、
私は、誰のことも傷つけたくないというだけで、
それなのに優しい人になる。

あなたは優しいねと言われて、
頭を撫でられて、死にたくなかった、
私がいなくなったら死んでしまう人が
全員、全てを手に入れて幸福になって
ここから出て行ってくれたら、
私は幸せになれる。
あなたたちに、愛されたくない。
あなたたちを愛したくない。
あなたたちは私のことを本当は好きじゃない、
そのことに気づいていないだけだよ。
私が、必要だから。
私がいないと死んでしまうから。
みんなが幸せになって、
ここからいなくなりますように。
私はずっと、ここに閉じ込められていていいです。
誰もいなくなって陽の当たらない部屋で、
湿った空気に包まれて、
黙り込んで誰にも愛されず、
優しいね、など言われない人生。
私のためだけの人生。
冷たくなりたい。最低になりたい。
みんなのことを嫌いになりたい。

優しい人になりたいです
優しい人になったら幸せになれると聞きました
だから優しい人になりたい
とても最低な考え、だと思います

幸せになりたいです
だから妹とおじいちゃんがいなくなればいいのにと
思う
幸せになりたいです
だから優しい人になりたい
優しいならどんなに不幸でも
ガラスの靴をもらって
外の世界に行けるって
私は妹に教えてあげる
優しいシンデレラは幸せになりました
妹がいなくなれば私は幸せになるでしょう

優しい人になりたいです
私みたいに誰もならないで
私は優しくないから、不幸なんです

今のママは私が嫌いだし
ずっと昔、ママが撫でてくれた頭を
ママは今、殴ってくる
死んじゃったパパは もういないから
もういないから私を助けない
パパは、こんなママを
見なくて済んでよかったね

私が、
優しくないから、
パパは死んじゃったのかな

かわいそう、妹
かわいそう、おじいちゃん
私が優しくなくて
かわいそう
だからいつも、優しいふりをしています
私がいなくなっても、
この二人はしあわせになれない
この二人がいなくなれば
私はしあわせになる

だから、この二人はかわいそう

しあわせになって
私の目の前から消えて
死ね、なんて言えない
好きだよって、言っていたい
大好きだよ、幸せになって
私の、目の前から消えて

ママが死んでしまった日
私は妹の手を握っていた、
ずっと温かい手
泣いている私、何もわかっていない妹
ママは私たちが嫌いだと言った
ママは
昔は私の頭を撫でてくれた
お腹が痛くて泣いてる私のお腹を撫でてくれた
私が妹くらいだったころ
ママは私のことが好きだった
私はママのことがいつまでも好きだよ

ママは、私をいらないと言った
ママが死んでしまった日
生きているけれど、今日ママは死んでしまったのだと思う
思わないと、いつまでも
お腹が痛いママを思い出してしまう

妹に、ママは帰ってくるの？ときかれて、そうだよと答えた
ママは、私のことが好きかな？ときかれて、
そうだよ、と答えた
妹はだから、ママとちゃんとお別れができない
痛い、と、悲しいと、
私が抱き締めてもママを呼ぶの
ママ

妹は、私が手を握らないと眠らない
ずっと、あの日から、手を握っていないと眠らない
ずっと、温かい手
妹の中にだけママが生きていて
手を握る間だけ、ママが私の頭を撫でる
ごめんなさい
死ぬまで、妹のために生きます
ママ、ごめんなさい
ママ、帰ってきて
ママ、痛いよ
私が、妹のために生きます

シンデレラは、誰かに「死ね」と思ったことがあるのかな
ガラスの靴
ガラスのナイフ
ガラスのバット
ガラスの銃
ガラスの食べ物をおじいちゃんの口に運ぶわたしがたまに見える
おじいちゃんが死んでしまう日
私はきっとほっとしてる
ママが帰ってくると家で待つ
優しいママがお誕生日おめでとうって
たくさんのケーキを抱えて帰ってくる
私はママの胸に飛び込んで頭を撫でてもらう
私がママの子供に戻る日
ママが私のママに戻る日
おじいちゃんが死んでしまう日
私はきっと毒を混ぜてるんだ
そんなことしたつもりはなくても、涙という毒を
毎日おじいちゃんの食事に混ぜているんだ
おじいちゃんは私のことが好きだから
おじいちゃんはそれだけでいつか死んでしまうだろう
私の涙という毒で

かわいそうと言われます
かわいそうと言われる私は泣いています
かわいそうと言われている私の涙で死ぬおじいちゃんを
誰も憐れんでいないのを
知っています
だから私はおじいちゃんに死ねって
涙の雨を降らせている
私は恋がしたかった
王子様に愛されたかった
おじいちゃんに死ねって
涙の雨を降らせている

あなたたちの手をふりほどきたいのに、
ほどけないまま、
私の涙をぬぐうひとだけが、どこにもいない。
恋がしたいんじゃないです。
大人になれば、さみしいと言えば、
そんな意味になるんだろう、
私が、さみしいと言えば、
愛が必要だと思われるのだろう。

家族に必要とされていた私は、
愛に満ちた子供時代でしたか？
さみしいと言えるとき、
私はきっと安らいている。

もう誰の名前も呼ばなくていいとき、
私は、やっと自分の名前を抱きしめられる。
それでも、それが幸福じゃないことも、
私はきっとわかっている。
家族のことも、私のことも、
誰のことも幸せにしなくていいんだよと、
誰かに言ってほしかった。
愛してる、ではなくて。

幸せになりたい、と願えることは
それだけで恵まれていることだと思います。
自分が幸せを願ってもいい存在だと思えることは、
それだけである一つの自由を得ていると思う。
当たり前のことに思えるその願いを、
まず「願っている」と言えない人がいて。
その人が言葉にするのをやめてしまった気持ちを、
言葉にしないで置いてきたからこそ、
なんの形にもなれずただ揺らめいている
海の中の陽の光のようなその感情を、
固めないで、決めつけないで、
詩の言葉にできれば、と思いました。
ヤングケアラー、と言っても、一人一人の「私」「ぼく」がいて、
「ヤングケアラーの話」ではなく、
無数の「私の話」「ぼくの話」がある。
踊ることも、詩も、一つの代表として
ものを語るのではなくて、
ゆらめく無数の「私」と「ぼく」を
そのまま表せるものだと私は思います。
だからこそ、届くものがあると信じています。

芸術監督 ARTISTIC DIRECTOR 熊川哲也 Tetsuya Kumakawa



シンデレラ
小林美奈



祖父
★森 優貴



母
★酒井はな



伯母
★白石あゆ美



義妹
岩井優花



青年医師
杉野 慧



石橋奨也



吉田周平



栗原 柊



高橋怜衣



辻 久美子



辻 梨花



山田夏生



金 瑛揮



世利万葉



塚田真夕



中井皓己



長尾美音



川本果佑



高橋芳風



向井裕一郎



森 雅臣



山田博貴

副芸術監督 ASSISTANT DIRECTOR

浅川紫織 Shiori Asakawa

音楽監督 MUSIC DIRECTOR

井田勝大 Katsuhiro Ida

リハーサル・ディレクター REHEARSAL DIRECTOR

西野隼人 Hayato Nishino

バレエ・ミストレス BALLEET MISTRESS

前田真由子 Mayuko Maeda

山田 蘭 Ran Yamada

バレエ・マスター BALLEET MASTER

奥山真之介 Shinnosuke Okuyama

名誉プリンシパル HONORARY PRINCIPALS

荒井祐子 Yuko Arai

スチュアート・キャンディ Stuart Cassidy

中村祥子 Shoko Nakamura

遅沢佑介 Yusuke Osozawa

プリンシパル PRINCIPALS

浅川紫織 Shiori Asakawa

飯島望未 Nozomi Iijima

石橋奨也 Shoya Ishibashi

日高世菜 Sena Hidaka

堀内将平 Shohei Horiuchi

山本雅也 Masaya Yamamoto

プリンシパル・ソリスト PRINCIPAL SOLOISTS

岩井優花 Yuka Iwai

小林美奈 Mina Kobayashi

杉野 慧 Kei Sugino

成田紗弥 Saya Narita

ファースト・ソリスト FIRST SOLOISTS

浅野真由香 Mayuka Asano

栗山 廉 Ren Kuriyama

戸田梨紗子 Risako Toda

吉田周平 Shuhei Yoshida

グレゴワール・ランシエ Grégoire Lansier

ソリスト SOLOISTS

大久保沙耶 Saya Okubo

栗原 柊 Shu Kurihara

佐伯美帆 Miho Saeki

辻 久美子 Kumiko Tsuji

辻 梨花 Rika Tsuji

本田祥平 Shohei Honda

山田夏生 Natsuki Yamada

ファースト・アーティスト FIRST ARTISTS

金 瑛揮 Yeonghwi Kim

栗山結衣 Yui Kuriyama

世利万葉 Kazuha Seri

田中大智 Daichi Tanaka

塚田真夕 Mayu Tsukada

中井皓己 Teruki Nakai

長尾美音 Mine Nagao

アーティスト ARTISTS

今本和佳 Madoka Imamoto

梅木那央 Nao Umeki

岡庭伊吹 Ibuki Okaniwa

川本果佑 Miyu Kawamoto

木下乃泉 Noi Kinoshita

久保田青波 Aoba Kubota

鴻野寛太 Kanta Kohno

島村 彩 Aya Shimamura

清水理那 Rina Shimizu

高橋芳風 Mototaka Takahashi

武井隼人 Hayato Takei

原 美咲 Misaki Hara

藤島恵太 Keita Fujishima

藤吉沙季 Saki Fujiyoshi

布瀬川桃子 Momoko Fusegawa

細田誉翔 Takato Hosoda

本元 光 Hikaru Honmoto

向井裕一郎 Yuichiro Mukai

森 雅臣 Masaomi Mori

山田博貴 Hirotaka Yamada

アパレンティス APPRENTICES

青木恵吾 Keigo Aoki

明石宗馬 Souma Akashi

天木麻裕 Mayu Amaki

井隅 萌 Moe Isumi

岩田 恒 Kou Iwata

大坪明日香 Asuka Otsubo

黒崎空哉 Kuuya Kurosaki

鈴木里佳子 Ricako Suzuki

高木明日花 Asuka Takagi

二本柳美波 Minami Nihonyanagi

松田海空 Misora Matsuda

村上佳恵 Kae Murakami

ゲスト・アーティスト GUEST ARTISTS

伊坂文月 Fuzuki Isaka

宮尾俊太郎 Shuntaro Miyao

キャラクター・アーティスト CHARACTER ARTISTS

ニコライ・ヴィユジャーニン Nikolay Vityuzhanin

ビャンバ・バットボルト Byambaa Batbold

リハーサル・ピアニスト REHEARSAL PIANISTS

福原智子 Tomoko Fukuhara

塚越恭平 Kyohei Tsukakoshi

井上ゆう香 Yuuka Inoue

※★はゲストダンサー



The New Equation

変わりゆく世界で成功し続けるために

The New Equation は、PwCの成長戦略です。
多岐にわたる分野の多様なプロフェッショナルがスクラムを組み、
「人」ならではの発想力や経験と「テクノロジー」によるイノベーションを融合しながら、
ゆるぎない成果を実現し、信頼を構築します。

It all adds up to The New Equation.

PwC Japan グループ

PwC Japan 有限責任監査法人

PwCコンサルティング合同会社

PwCアドバイザリー合同会社

PwC 税理士法人

PwC 弁護士法人

www.pwc.com/jp

PwC Japan グループは、日本における PwC グローバルネットワークのメンバーファームおよびそれらの関連会社の総称です。
各法人は独立して事業を行い、相互に連携をとりながら、監査およびアシュアランス、コンサルティング、ディールアドバイザリー、税務、
法務のサービスをクライアントに提供しています。

© 2024 PwC. All rights reserved. PwC refers to the PwC network member firms and/or their specified subsidiaries in Japan, and may sometimes refer to the PwC network. Each of such firms and subsidiaries is a separate legal entity. Please see www.pwc.com/structure for further details.



Orchard シリーズ

芸術監督／企画

熊川哲也

K-BALLET
Op+o

舞台美術デザイン
衣装デザイン
照明デザイン

ジュゼッペ・スボッタ
進 美影 (MIKAGE SHIN)
伊藤雅一

シンデレラの家

(TECHNICAL STAFF)

舞台監督
舞台進行・大道具・小道具
照明操作
音響 (エレクトロニクス・ファンタスティコス！)
音響
音響操作
美術設計

狩俣康徳
株式会社ザ・スタッフ
株式会社 流 (RYU)
山口宜大
貫井政仁 (N-I Audio)
宮武剛史
坂田直哉 (東京工業大学 塚本由晴・山崎義弘研究室)



衣裳制作
トランスポーテーション
協力

川島映子 東田景子 平賀万里乃 (K-BALLET)
株式会社トランスウェブ
株式会社矢島聰子事務所

企画・制作

Bunkamura／K-BALLET

(Bunkamura)
エグゼクティブ・プロデューサー
ゼネラル・プロデューサー
チーフ・プロデューサー
制作
票券
制作デスク

加藤真規
森田智子 児玉晶子
高野泰樹
江上ゆか
石井のぞみ 柴田菜穂
星野綾乃

(K-BALLET)
プロデューサー
制作統括
制作

三輪奈未
鈴木奈々子
安藤歌穂 萩原淳子

映像制作

星野一翔 (STARTS)

(PROGRAM STAFF)
アート・ディレクター
デザイン
編集
写真
イラスト
印刷
制作・発行

白田香太 飯島麻奈美 (アトリエタイク)
アトリエタイク
結城美穂子
渡邊 肇
ヒグチユウコ
株式会社東京印書館
Bunkamura／K-BALLET

主催
特別協賛
助成

Bunkamura／K-BALLET
PwC Japanグループ
公益財団法人東京都歴史文化財団
アーツカウンシル東京 [芸術文化魅力創出助成]
一般社団法人ヤングケアラー協会
オニツカタイガー

特別協力



Bunkamuraを支えるオフィシャルサプライヤー

OMRON in 鹿島 KIRIN 大和証券グループ ETV 東急グループ

Bunkamura
Challenge